

令和5年度授業改善推進プラン【国語】

学校名 武蔵村山市立第四小学校

4年	【目指す授業】	・話をしっかりと聞かせ、内容を理解できるようにする授業 ・友達の良い点を見付け、自分に生かせるようにする授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○話を聞きもらしてしまい、何度も同じことを聞きに来ることがある。 ○自分の言葉で説明することに課題がある。		○授業の中でメモを取る時間を意図的に設定する。(スピーチやビデオ、社会科見学等) ○書いた文章を友達と読み合う場を設定し、何を書けば良いのかが分かるようにする。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	他の人の話を聞くとときは、メモを取って理解するようにしている。		74.5%	85%	59.6%
	他の人が書いた文章のよい点を取り入れて書くようにしている。		74.5%	85%	75.6%
	【評価】	成果と課題			
B	○友達の意見をノートに書くことで、自分の意見と比べて考えることができる児童が増えた。 ○書いた文章を友達と読み合い、友達が書いた文章の良い点を理解したことで、書くことが苦手な児童も書けるようになった。				

5年	【目指す授業】	文章の内容が理解できるとともに、他の人に自分の考えを伝えることができる授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○文章の読解や問いに答えることに課題がある。 ○自分の考えや思いを分かりやすく伝えることに課題がある。		○文章の内容理解ができるように、範読を繰り返し行い、文脈にある大事などところを見付けることができるようにする。 ○ペアなどの少人数で自分の考えを伝える機会を設定する。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	文章を理解できるように、大切だと思った部分や疑問に思った部分に線を引ながら読んでいる。		60.7%	70%	60.4%
	発表や話し合いのときは、話す内容や順序を考えてから話している。		73.3%	75%	80.0%
	【評価】	成果と課題			
B	○範読を繰り返すことで、文章の大事などところを見付けることができる児童が増えた。 ○初見の文章では、自分が見付けた大事などところに自信がもてない児童がいた。				

6年	【目指す授業】	・自分の考えを分かりやすい表現で書けるようにする授業 ・自分の考えや思いを他の人に伝え合うことができる授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○自分の考えや思いを分かりやすい表現で書くことに課題がある。 ○書く順序、書く筋道を考えることに課題がある。 ○自分の言葉で説明することに課題がある。		○文例等を提示し、理由を挙げながら文章を書くよう指導する。 ○意見文や感想文を書く活動を各単元で設定し、作文力の向上を図る。 ○メモを基に書いた文章を伝え合う機会を設定する。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	自分が書いた文章を読み返し、分かりやすい表現になるように書き直している。		65%	75%	55.8%
	文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。		50%	65%	65.1%
	【評価】	成果と課題			
B	○推敲する時間や友達と読み合う機会を設けることで、分かりやすい文章を書ける児童が増えた。 ○伝える前にメモに書いて伝えることを整理することで、自分の考えを説明できる児童が増えた。				

令和5年度授業改善推進プラン【算数】

学校名 武蔵村山市立第四小学校

4年	【目指す授業】	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能の定着を目指す授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○問題文の内容を図や表、グラフに表すことに課題がある。 ○学習内容を理解・定着しきれていない場合もそのままにしてしまう児童がいる。		○週に1回朝学習で文章問題に取り組み、図や表、グラフをかく時間を設定する。 ○テスト前に、タブレットPCやプリントなどを使って適用問題に繰り返し取り組ませる。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		70.6%	80%	68.2%
	テストやドリルでまちがえたところは、似た問題を選んで、特に練習している。		72.5%	80%	62.2%
	【評価】	成果と課題			
	C	○間違えた問題の復習に取り組む指導を徹底したことで、学習内容を理解・定着できる児童が増えた。 ○文章の言葉から、図や表に表し立式できる児童が増えた。			

5年	【目指す授業】	四則計算等の既習内容を活用し、答えを導き出そうとする授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○四則計算が身に付いていない児童がいる。 ○基礎・基本の定着に2極化が見られ、差が大きい。 ○文章題からの立式が苦手な児童がいる。		○毎時間の導入でタブレットPCを活用し、既習の四則計算の時間を設定する。 ○文章題の単位から、立式の仕方を考えたり内容を図や表に表したりして考えを説明する場面を設定する。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	前に同じような問題をやったことがあるかや、今まで学習した問題とどこがちがうのかを考えている。		76.8%	80%	78.3%
	分かっていることと求めることを考えて問題に取り組んでいる。		69.6%	75%	80.5%
	【評価】	成果と課題			
	B	○文章題の単位から、求めることを考えて立式しようとする児童が増えた。 ○既習である四則計算の定着に2極化があり、解く時間に大きな差がある。			

6年	【目指す授業】	計算方法や図形の公式を理解し、自分の考えを説明し合う授業			
	児童の実態・課題		具体的な手だて		
	○自分の考えを文章や図で説明をし、他の人に伝えることに課題がある。 ○応用・発展の問題を解くことに課題がある。		○自分の考えをペア等で伝え合う際に説明の仕方を示す。また、複数人に説明させることで、説明する機会を意図的に増やす。 ○授業の後半に基礎・基本の問題だけではなく、タブレットPCやプリントを活用し、応用・発展問題にも繰り返し取り組ませる。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	算数で学習した言葉を使って自分の考え方を説明している。		65%	75%	55.8%
	問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		50%	65%	69.8%
	【評価】	成果と課題			
	B	○友達と考えを共有する時間を設定することで、自分の考え方を説明ができる児童が増えた。 ○式だけで考えるだけではなく、図などに表すことで整理できる児童が増えた。			